

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年9月4日

予報期間：9月6日～10月5日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:40:30 40:30:30	20:40:40 20:30:50	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:30:30 50:30:20	10:30:60 20:30:50	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 50:30:20	10:30:60 10:30:60	
沖縄・奄美		10:10:80	40:30:30	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

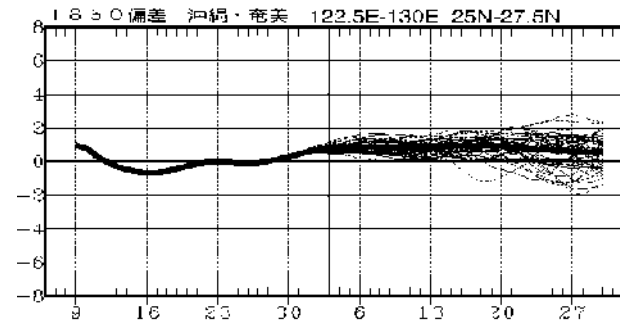
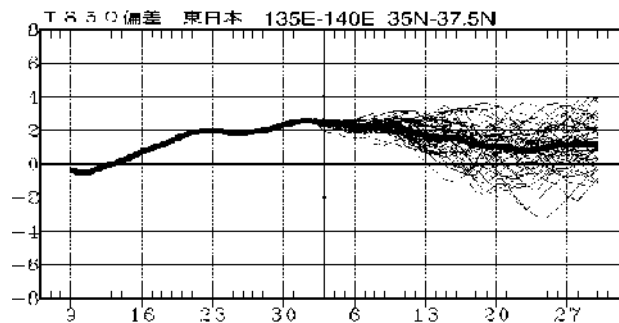
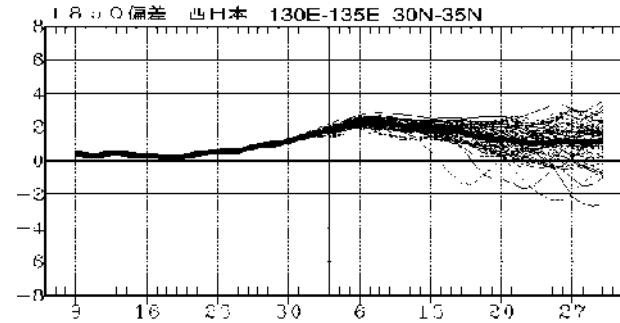
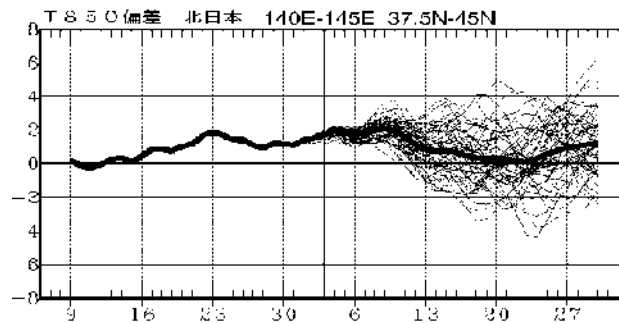
全般1か月予報のポイント

- ・北・東・西日本では、6月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。全国的に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・北・東・西日本では、6月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月の降水量も、高気圧に覆われやすいため、東日本太平洋側と西日本では少ないでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側と東・西日本で多く、北日本日本海側で平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(9/6～9/12)	2週目(9/13～9/19)	3～4週目(9/20～10/3)
想定される天候(気温)	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。
根拠	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に、近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P12参照)	偏西風が北偏して流れるとともに、東・西日本を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多い。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12-13参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P12参照)

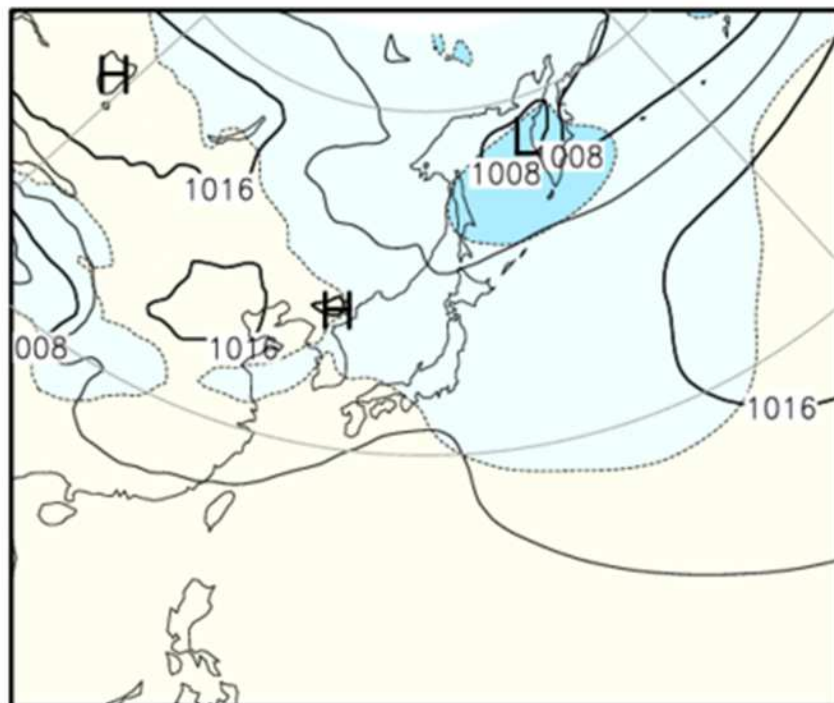
850hPa気温 偏差時系列



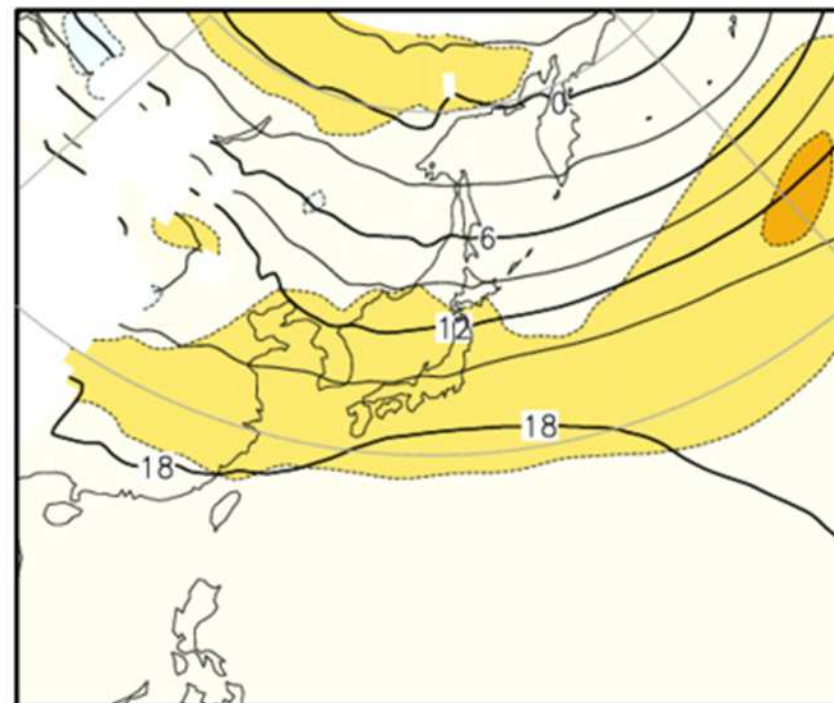
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(9/6～9/12)	2週目(9/13～9/19)	3～4週目(9/20～10/3)
想定される 天候 (天気)	北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北・東日本と西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	熱帯の対流活動と上層のリッジの影響で、高気圧に覆われやすいものの、平年程度に低気圧、前線、湿った空気の影響を受ける。 (P.10-13参照)	熱帯の対流活動と上層のリッジの影響で、東・西日本を中心に、高気圧に覆われやすい。北日本も高気圧に覆われやすいが、低気圧や前線の影響を受けて日本海側では降水量が多くなる可能性がある。(P.10-13参照)	平年同様の気圧配置だが、西日本日本海側は、移動性高気圧に覆われやすい。一方、東日本太平洋側を中心に、平年と同様に前線や湿った空気の影響を受ける可能性がある。 (P.10-13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

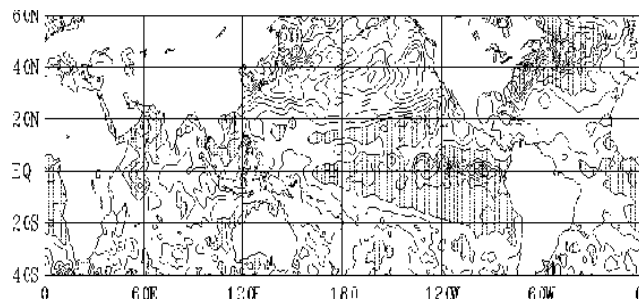


1か月平均の海面気圧(左図)は、平年に見られる日本の南の気圧の谷が浅く、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。一方、オホーツク海付近は気圧の谷となり、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込みです。

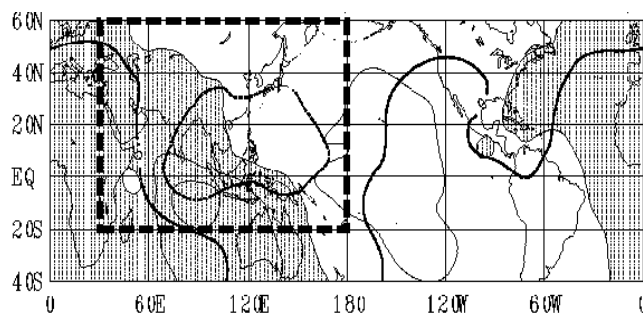
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

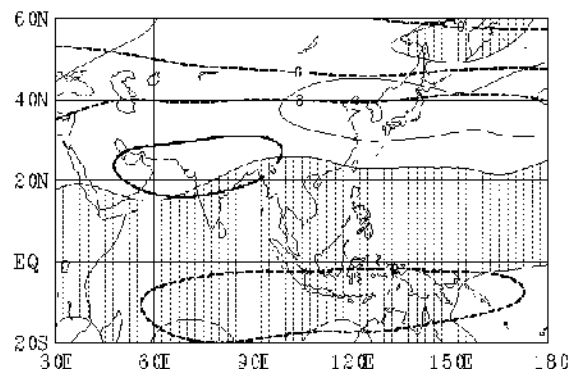
SST偏差



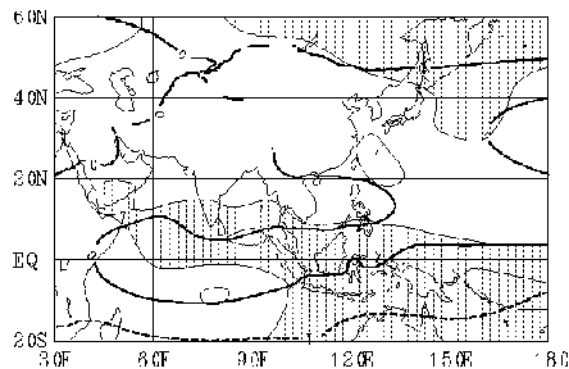
200hPa速度ポテンシャル



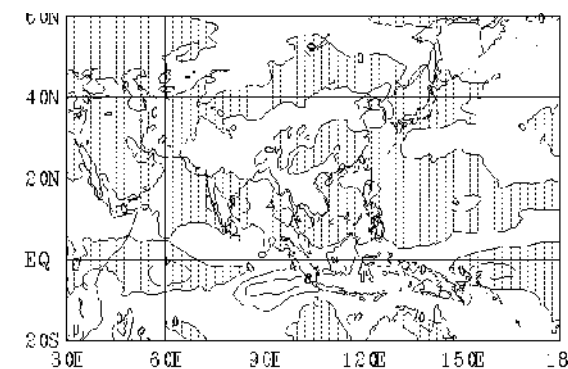
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

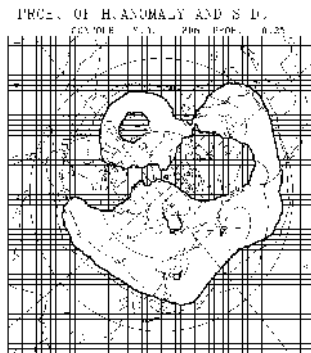
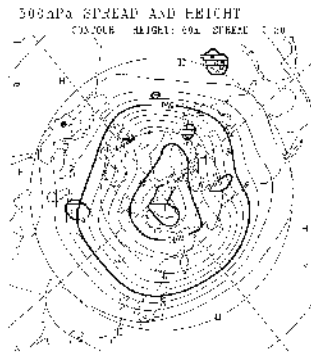
200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インド洋東部からインドネシア付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、華北から日本の東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、対流活動に関連し、日本の南で高気圧性循環偏差。

降水量は、フィリピン東方海上で少雨偏差。日本付近も少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

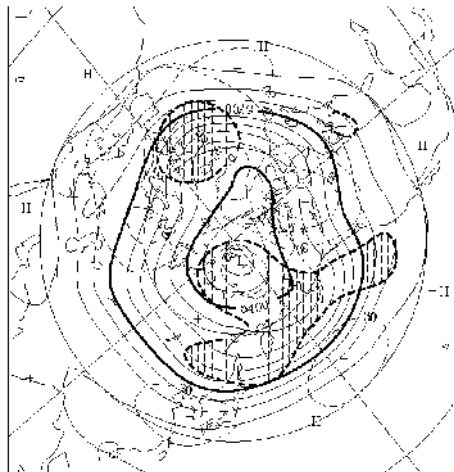


500hPa高度は、中緯度帯で帯状に正偏差。沿海州付近からアリューシャン近海にかけて負偏差。東北以南は、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

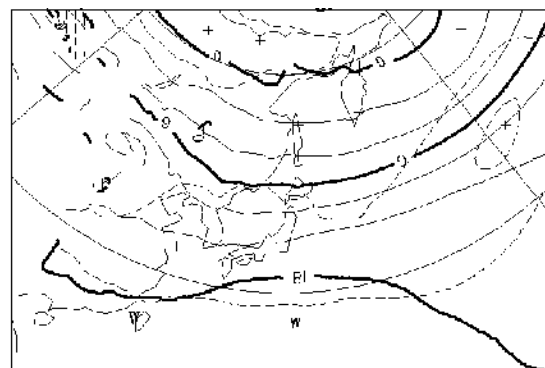
850hPa気温は、日本付近は正偏差。

海面気圧は、平年に見られる日本の南の気圧の谷が浅く、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすい。一方、オホーツク海付近は気圧の谷となり、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。沖縄・奄美は高気圧に覆われやすいが、湿った空気や熱帯じょう乱の影響も考慮する。

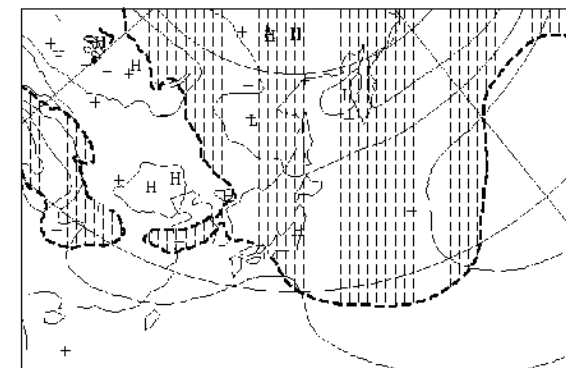
500hPa高度



850hPa気温

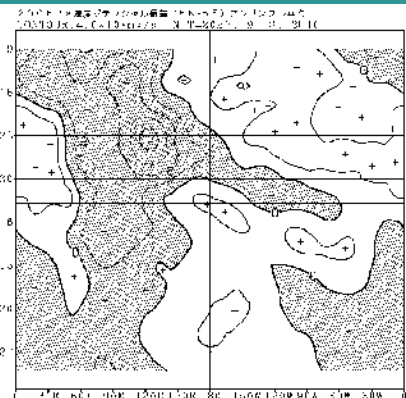


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

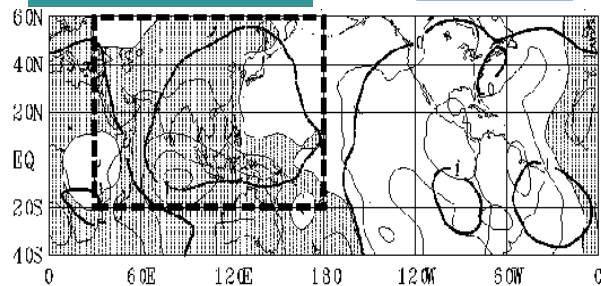
200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



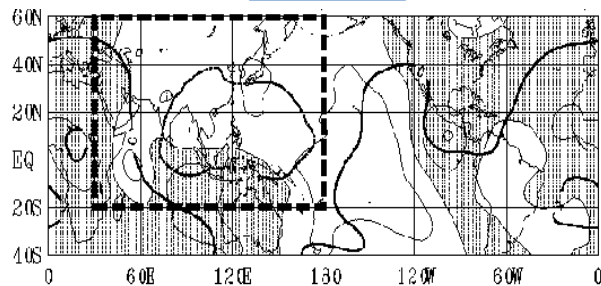
200hPa速度ポテンシャルは、季節内変動の振幅は小さく、インド洋からインドネシア付近で発散偏差、日付変更線付近で収束偏差が持続。フィリピン東方海上でも収束偏差が持続。
降水量は、インド洋熱帯域の南東部からインドネシアにかけて多雨偏差が、フィリピン東方海上では少雨偏差が持続。

200hPa速度ポテンシャル

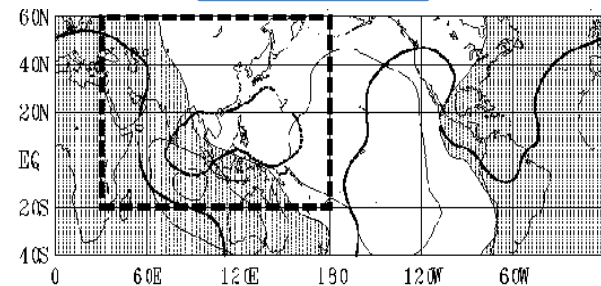
1週目



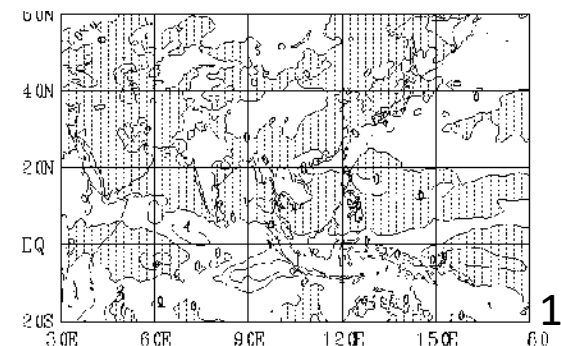
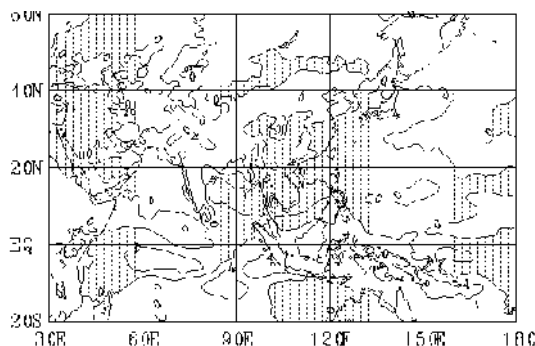
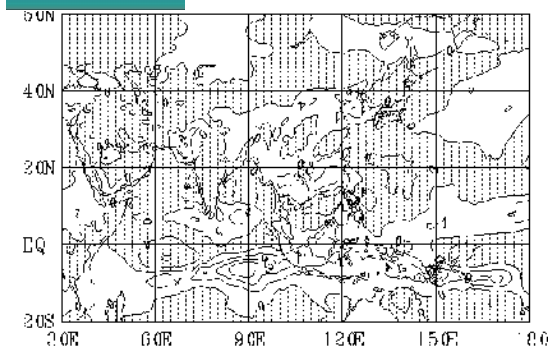
2週目



3~4週目



降水量



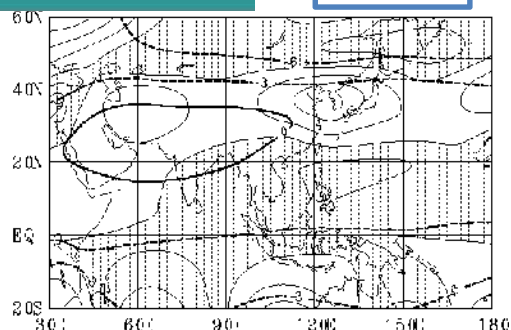
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1～2週目にかけて、日本付近は朝鮮半島中心の高気圧性循環偏差(西北西からのロスビー波束伝播も寄与)に覆われる。3～4週目には、高気圧性循環偏差の中心は日本のはるか東(これは高周波じょう乱の影響を示唆)で、日本付近は西谷傾向になる。

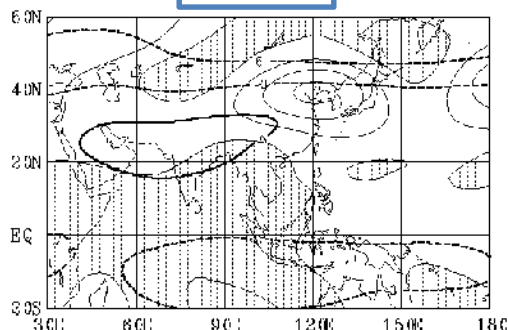
850hPa流線関数は、1～2週目にかけて南西諸島中心に高気圧性循環偏差が強く(対流活動と上層の高気圧性循環偏差の影響)東・西日本も覆う。3～4週目には日本の南で低気圧性循環偏差となる。

200hPa流線関数

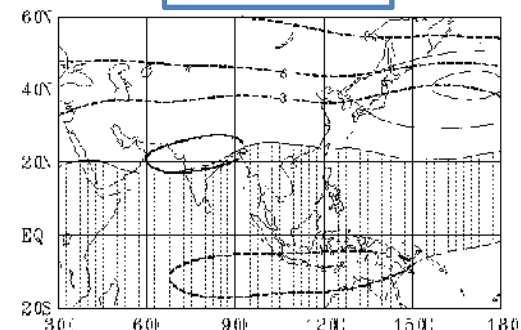
1週目



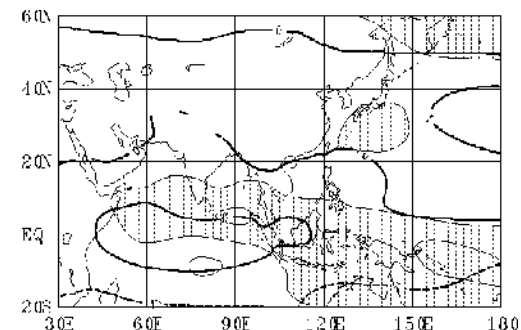
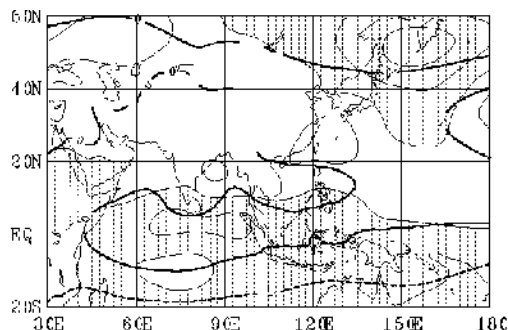
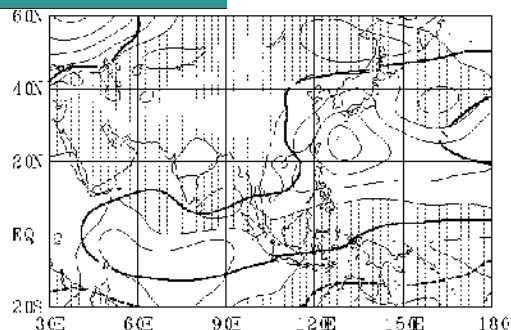
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

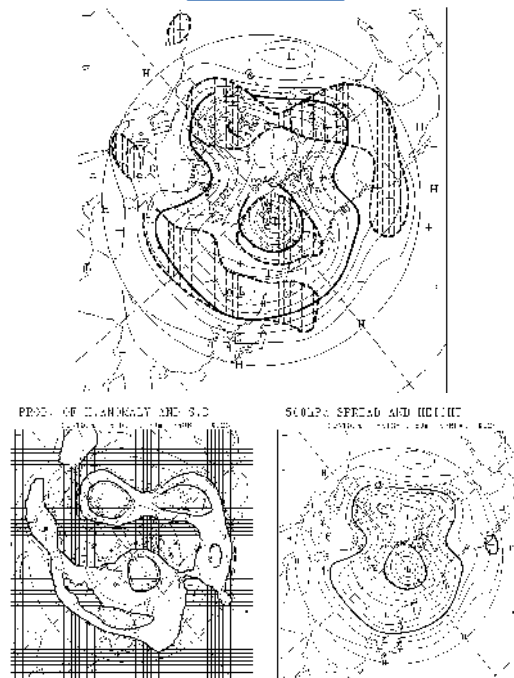


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

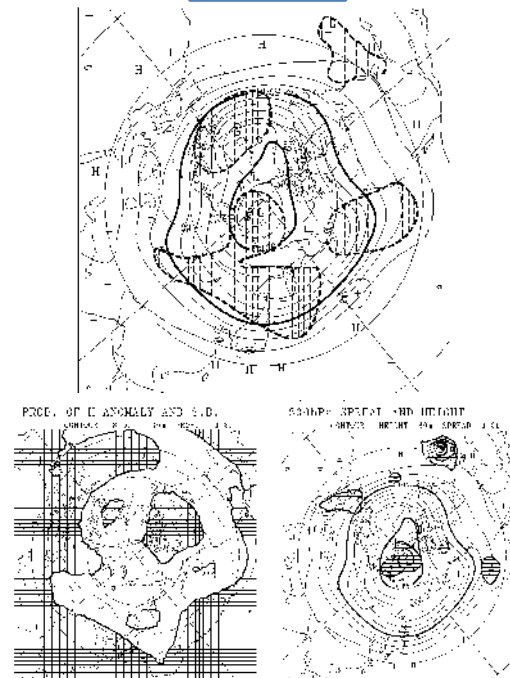
500hPa高度は、1～2週目には日本の北に東西帯状に負偏差域が広がる一方、日本付近は正偏差で、南北の高度の傾きが大きく亜熱帯ジェット気流はやや北偏して強い。このため、北日本は低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。ただし、正偏差の中心は日本の西で、日本付近では平年に比べて西谷が浅いため、大規模場的には下降流偏差。3～4週目には日本の北の負偏差域は解消するとともに、正偏差域の中心は日本の東に移り、日本付近は平年と同様の西谷傾向となる。

500hPa高度

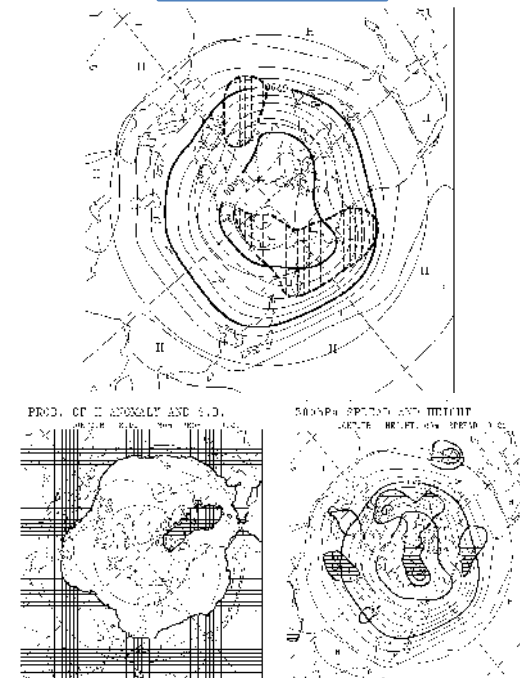
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、日本付近は正偏差が続き、特に1～2週目には大陸からのびる強い正偏差域が東・西日本中心に覆う。一方、2週目には日本の北が負偏差域で、北日本では気温の南北の傾きが大きい。3～4週目には華北付近に負偏差域。

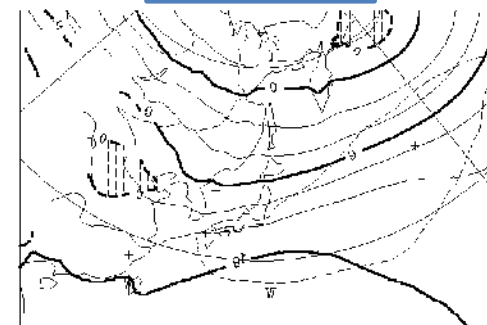
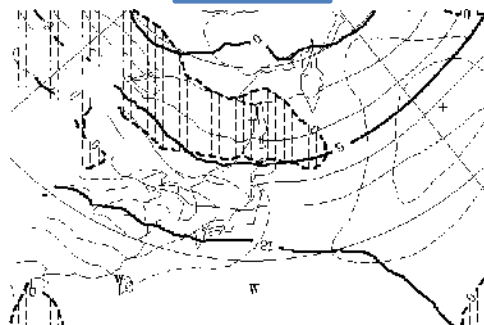
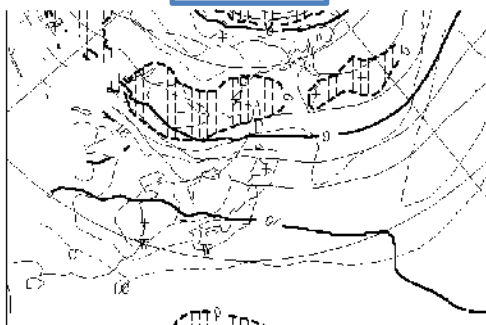
海面気圧は、1～2週目には日本の南で高気圧が強く、沖縄・奄美、西日本を中心に覆う。一方、日本の北には気圧の谷があって、北日本は低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。3～4週目には、大陸と日本の東で高気圧が強い一方、日本の南で気圧の谷が深まり、東日本太平洋側を中心に、平年と同様に前線や湿った空気の影響を受ける可能性がある。

1週目

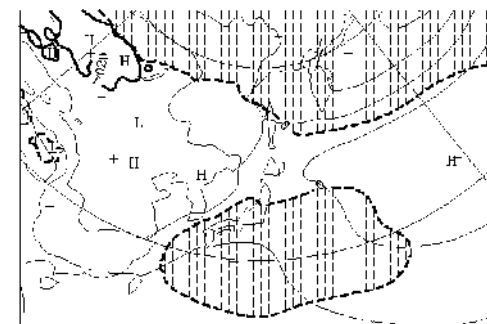
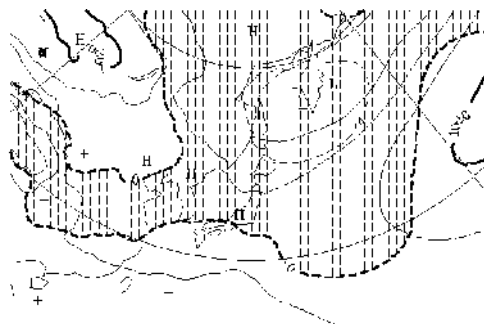
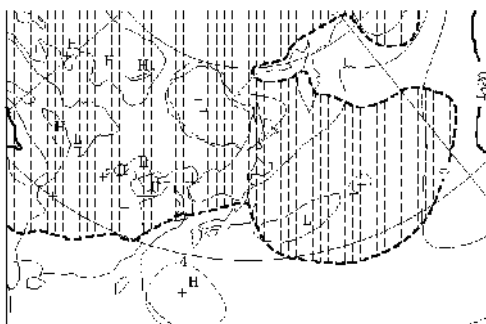
2週目

3～4週目

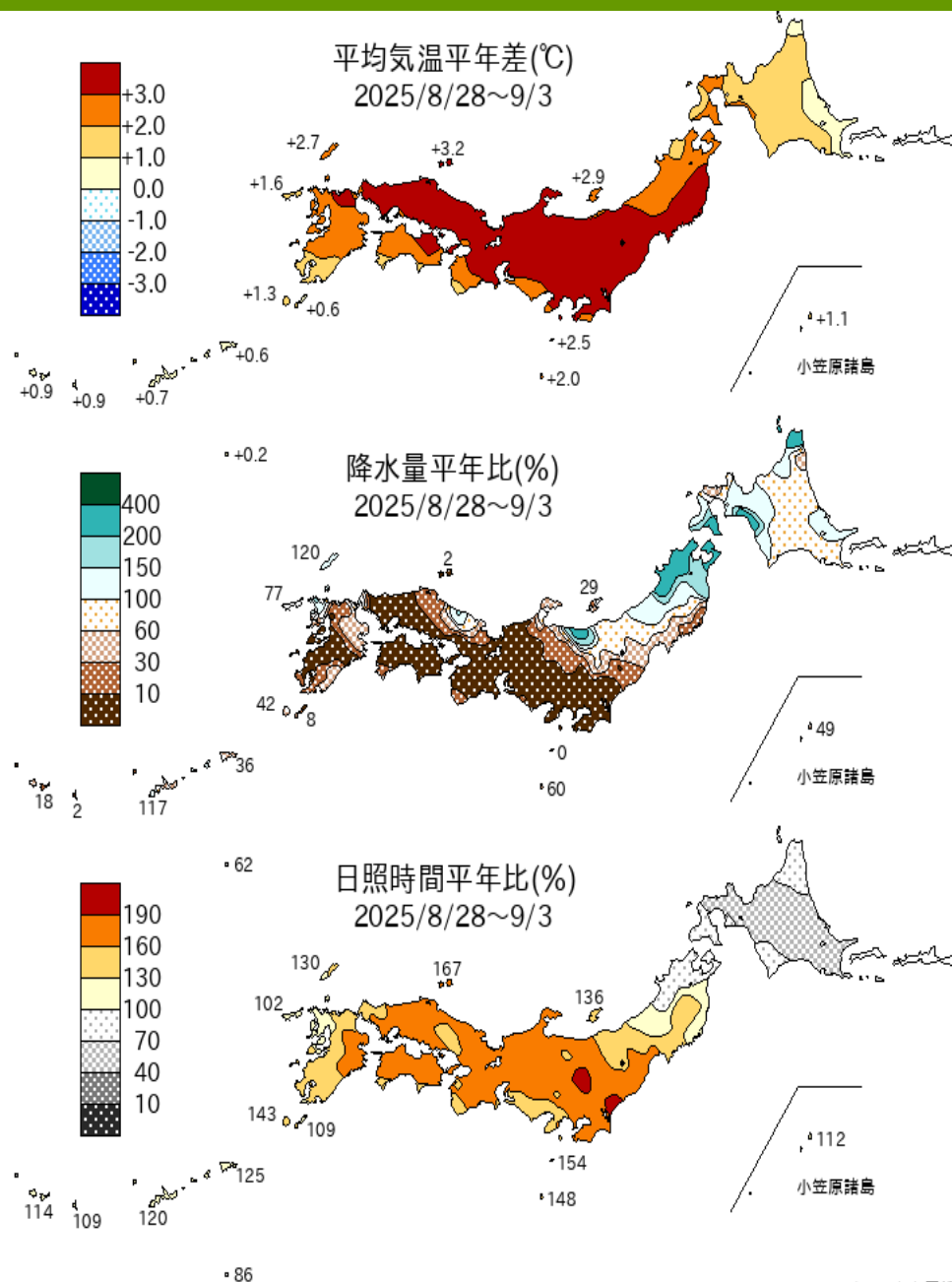
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(8月28日~9月3日)は、北日本は低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった一方、東・西日本と沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、降水量は、北日本日本海側で平年を上回った他は、平年を下回った所が多くなりました。29日には青森県で線状降水帯が発生しました。日照時間は北日本で平年を下回った他は、平年を上回りました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだため、北・東・西日本では平年を大きく上回りました。8月30日と31日には、関東甲信地方と東海地方で日最高気温が40℃以上となる地点がありました。